

## 新型インフルエンザ A(H1N1)用 予防ワクチン ( パンデムリックス ) について

現在流行している新型インフルエンザウイルス A(H1N1) による呼吸器疾患には平行して急激な疾患症状が発生します。**最も多く発生する症状としては、発熱、咳、頭痛、関節痛、倦怠感、食欲不振など、通常の季節的な風邪と良く似た症状**があげられます。まれな例として、吐き気、嘔吐、下痢などの疾患も報告されています。現在までに新型インフルエンザに感染した多くの患者では「通常の」季節性インフルエンザと同様の症状がみられています。呼吸器疾患、心臓循環系疾患、糖尿病などの慢性疾患または妊娠などにより、症状が大幅に重度なものとなる危険性があります。また、季節性の風邪とは異なり、若年層でも感染した場合の症状が重くなっています。

新型インフルエンザ A(H1N1) の潜伏期間は季節性の風邪と同様であると考えられています。感染可能期間は症状の発生直前 ( 24 時間以内 ) に始まり、発症から約 1 週間後まで続くと考えられています。

これまでの情報によると、季節性の風邪に対するワクチンでは新型インフルエンザ A(H1N1) を予防することはできません。

### ワクチン

新型インフルエンザ A(H1N1) 用として特別なワクチンが開発されました。このワクチンでは流行性ウイルス株に対する不活性化ワクチン ( 死んだ病原体を使用 ) が使用されています。新型インフルエンザ A(H1N1) ワクチンの認可および使用には、季節性風邪予防ワクチンで得

た長年の経験、およびモデル的流行感染症ワクチンと鳥インフルエンザ H5N1 の抗原に関する臨床調査データが反映されています。

この調査では、2 回の接種で十分な免疫反応が得られることがわかりました。

しかし、健康な大人および老人、小児 ( 6~35 ヶ月 ) への H1N1 用ワクチン ( パンデムリックス ) の投与に関してこれまでに収集された臨床データでは、1 回の接種でも高い免疫効果が得られることが判明しています。これは他の流行性 H1N1 用ワクチンも含めた臨床調査の結果でも確認されています。これを背景に、パウル・エーリッヒ研究所 ( Paul-Ehrlich-Institut, PEI ) およびロバート・コッホ研究所 ( Robert Koch-Institut, RKI ) では、10 歳以上の男女全員に成人投与量を 1 回投与することを推奨しています。6 ヶ月~満 10 歳 ( 年齢 = 9 歳 ) の小児に対しては、成人投与量の半分を 1 回投与するだけで充分です。

この新型インフルエンザ A(H1N1)用ワクチン ( パンデムリックス ) の特徴は、水中油型の免疫増強剤 ( アジュバント ) を使用していることにあります。これらの添加剤の使用により、身体中での免疫力が強化され、ウイルスの変異体に対しても幅広く予防効果を発揮します。

妊娠中は新型インフルエンザウイルス A (H1N1) の感染が重度の病状につながるリスクが高くなります。このため STIKO では、妊婦に対しては各自のメリットとリスクをよく考慮したうえで新型インフルエンザワクチンを投与することを推奨しています。これを目的とし、12 月中旬以降、パンデムリックスだけでなく、非アジュバント化・チオメルサル非含有の流行性インフルエンザワクチン CSL H1N1 が利用できるようになっています。妊

婦へのパンデムリックス投与にあたっての安全性および副作用の傾向に関してスウェーデンで幅広く収集されたデータによると、どちらのワクチンも妊婦への接種に適していることが判明しています。これにもとづき STIKO では、アジュバントワクチンおよび非アジュバントワクチンの両方を妊婦に使用できるとしています。

### パンデムリックスワクチンの接種を受けるべきでない方とは？

接種を行う際には、基本的に各個人におけるメリットとリスクをよく考慮することが必要です。これには、臨床調査データが全くない、または非常に少ない慢性疾患患者、子供、妊婦に特にあてはまります。

治療を必要とする急性の**発熱疾患**が見られる人は接種するべきではありません。この場合、完治後できるだけ早い時点で接種を実施することが必要です。

鶏卵白 ( 卵タンパク、鶏タンパク、卵白アルブミン ) またはその他の痕跡成分 ( チオメルサル、ホルムアルデヒド、硫酸ゲンタマイシン、デオキシコール酸ナトリウム ) に対するアレルギーの発症が判明している方に豚インフルエンザワクチンを接種する際には、非常に慎重な検討が必要です。これらの方にワクチンの接種を実施する際には、緊急の応急処置のための技術的および薬剤的な条件が整えられていること、さらに接種後は最低 1 時間の観察が必要です。何らかのワクチン成分に対して以前に ( 生死に関わる ) アナフィラキシー反応を起こしたことのある方は同ワクチンを接種するべきではありません。

